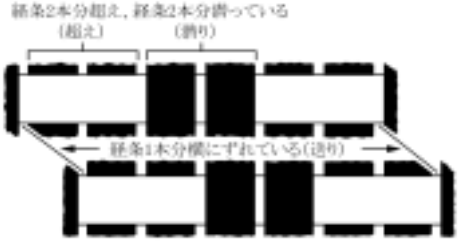
東アジア先史土器の「敷物圧痕」について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/2936

東アジア先史土器の「敷物圧痕」について

松永 篤知

世界各地の先史時代、特に新石器時代に相当する時期の土器外底面には、編み物や織物、木の葉などの圧痕が残されていることがある。この種の圧痕は一般的に、土器製作時に使われていた敷物の痕跡として理解されている。本論では、これらの圧痕を「敷物圧痕」と総称し、東アジアを対象とした分析・考察を行った。その際、日本の分類法を基本として、若干の変更・追加を加えた分類案も提示した。その結果、東アジア先史土器の「敷物圧痕」には、汎東アジア的に共通する特徴もあれば特定の地域・時期に固有の特徴もあるが、いずれもその背景には当時の土器製作技術や編織技術が大きく関わっているということが明らかになった。普段軽視されがちな間接資料からでも、非常に多くの情報を引き出すことができた。各種別個に研究されることが多かった「敷物圧痕」であるが、東アジア的な視点から総括的に分析することにより、その大枠は捉えることができたものと思う。



網代編みの組織（2 本超え 2 本潜り 1 本送り）

もじり編みの組織